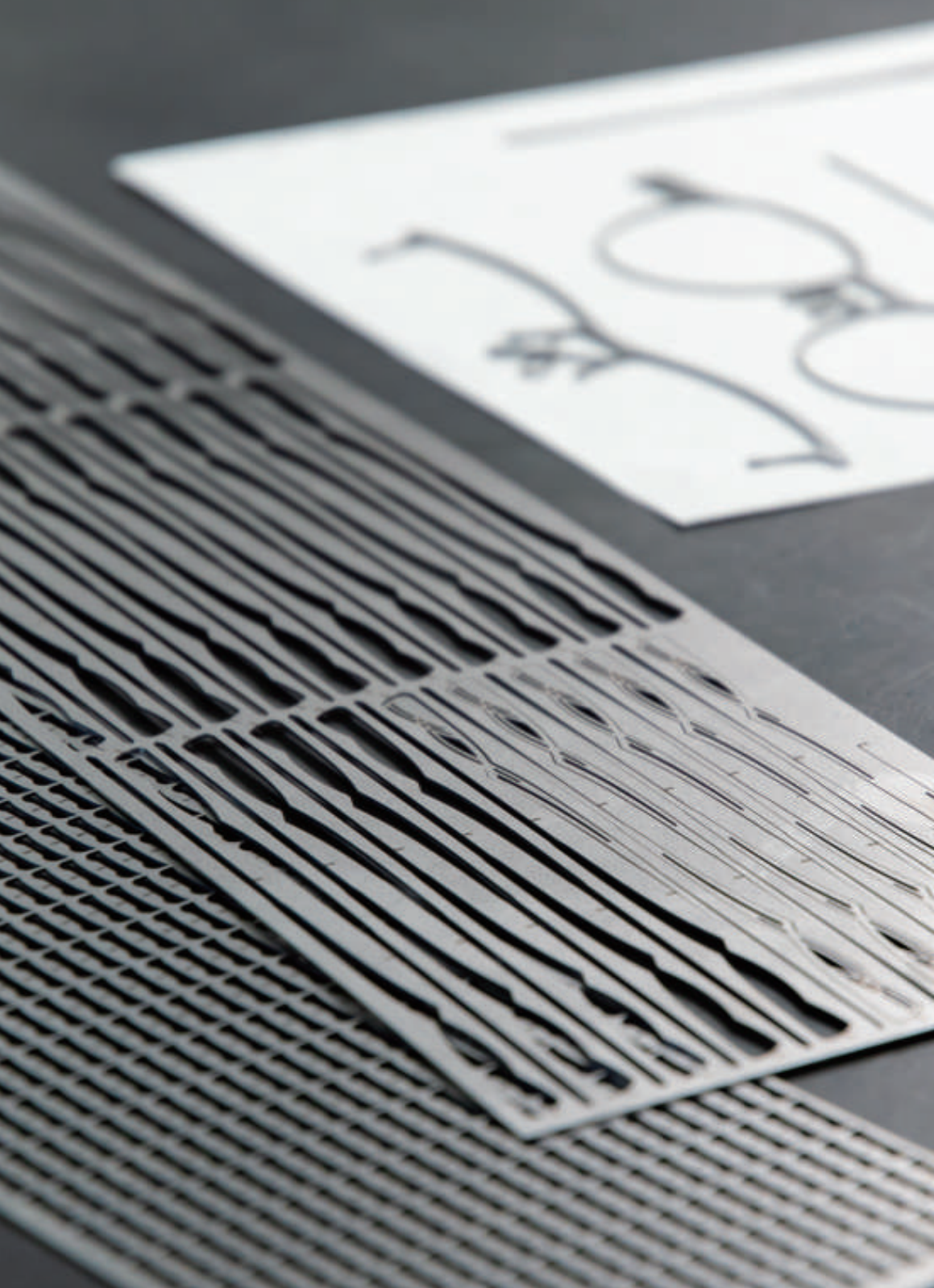


株式会社フクオカラシ



めがねの成型を左右するフレーム部分はレーザーで一度に多くを切り出し、それから個別に加工していく。

TOP MESSAGE

ベトナムに進出してから5年、ベトナム事業においては、めがね品目以外の受注が増えて参りました。当初は海外に生産拠点を持つことでリスクの分散やコストメリットを享受するという狙いがありましたが、異業種分野の販路拡大も進んでいます。海外での事業展開を行う上での基礎固めは出来たと思います。

また、技術だけではなく、当社が大事にしている社風を伝えていきたいと考えています。そして当社の優れた技術やサービスは、現場で支えてくれるスタッフがいるからこそ成り立つことであるという、この「思い」を今後も伝承していきたいと思っています。

会社設立・1973年3月
社長・福岡 幹人
資本金・1,500万円
従業員数・100人

〒916-0047
福井県鯖江市柳町4丁目4-4
TEL.0778-52-5300
FAX.0778-53-1100
<http://www.fukuokarashi.jp/>



- 1 めがね成型に使用するネジは一つひとつ、目で検査を行う。
- 2 めがね部品製造工程に欠かせない専用機。部品を製造するために自社開発を進めてきた。
- 3 顕微鏡でないと見えないほど小さい、腕時計の基盤に使用するネジたち。

高品質で低価格 ニーズに応えるべく海外へ

めがね産業が盛んな福井県・鯖江市にて、めがね部品やネジ類をはじめとする様々な精密切削加工部品を製造する『株式会社フクオカラシ』。納入先の大半はめがね産地である中国であり、低価格且つ高品質な製品が求められる。日本製は高品質であるがゆえに高価格帯であることからコストダウンは永続的な課題である。海外企業との商談においても「中国に拠点はないのか」と問い合わせを受けることが多く、日本品質を維持しつつ、ロープライス製品をもとめる海外企業の需要に接し、海外展開を強く意識したという。

そんな折、2009年に中国企業から合弁会社設立の誘いがあったが、当時政策転換期にあったことや税制面の問題を考慮し見合わせた。翌年、ベトナムを訪問する機会があり、その際「ベトナム人女性は手が小さくて器用、当社の労働条件にマッチする」と直感。タイミングよくベトナムでの工業団地新設の話が舞い込み、2013年、『フクオカラシベトナム』設立に至った。

現在、国内事業とベトナム事業の役

割は異なる。鯖江めがねブランドの特徴の一つに、チタン製であることが挙げられる。チタンは軽くて丈夫という特性があるものの、高い切削技術や知識が必要になるため、国内で対応している。

一方のベトナム事業においては、比較的加工しやすいニッケルシルバー等の合金を使用。生産量全体の3割が中国向けめがねパーツ、残り7割がベトナム日系企業向けであり、めがねパーツ以外の品目である。めがねパーツの製造で培われた微細加工技術は、異業種企業からの多様な受注に繋がっている。

また日系進出企業との情報交換を通して、タイムリーな最新情報をキャッチし、国内外の情報共有を技術開発に活用。新たな需要の把握、そして新規受注の獲得に繋がっている。

【知財ポイント】

鯖江眼鏡のパーツ製造で磨かれた微細加工技術

【波及効果】

鯖江眼鏡ブランドの浸透、自社技術のブランド化



5 4

- 4 現社長を務める福岡幹人氏。「ベトナムの国民性と人柄に惹かれた」と話す。自らが頻繁に現地を訪れている。
- 5 ベトナム現地に駐在し、立ち上げに奮闘した恩地さん。アドバイスを受けながら拠点の運営に尽力した。
- 6 パーツ同士の接続がしやすいよう、チタンの筒にニッケル合金を流し込み、2重構造に仕上げている。
- 7 パーツ製造中に発生した不要な部分を取り除く、通称「バリ取り」の作業。細かな部分まで入念にチェックする。



6

伝承する技術と社風 めがねブランドを 世界へ発信

ベトナム進出当初は、海外産業人材育成協会（AOTS）の研修制度を活用し、キースタッフ2名をベトナムから日本へ招致した。社会インフラや工場見学を含め、基本的には技能実習を中心に指導・教育を進めた。

その後、現地に戻ったキースタッフ2名が現地製造スタッフへの技術指導を行っている。特にこの2名を中心にベトナムの生産体制を構築すべく、当社のコア技術を出し惜しみすることなく伝えてきたという。実際にこの2名が現地製造スタッフへの技術指導において重要な役割を果たしてくれている。



社名の「ラシ」はネジの意をもつ。本社社屋の横には営業販売を担う「フクオカ機密株式会社」が隣接。

る。今後も現地スタッフとのコミュニケーションを大切にしながら円滑な業務遂行を目指していきたいという。

また、技術の伝承だけではなく、社風の伝承も行っている。これまで当社が大事に培ってきた社風をベトナム工場にも適用し、一丸となって経営にあたっている。現地では2代目社長から3代目社長へと継承予定だが、そうした社風と人材教育に対する熱意は変わらず受け継いでいく方針だ。

このような取り組みを進めることで、現地ベトナム国内における信頼や認知度向上にも寄与すると期待している。既にベトナムにおいては鯖江のめがねブランドは浸透してきており、それに呼応するように、当社の技術力の発信、さらなる知名度向上を期待したいという。



国内外の製造品に関わる生産管理は本社に集約され、国内の社員によって管理される。